

21世紀は「日本中心」から「地球から日本を見る」発想へ

「世界の軌道修正」を行える 日本型グローバル人財が必要

今は時代の大転換期。求められているのは、世界目線で日本や世界の現状を革新する行動ができる「21世紀型グローバル人財」だ。若い世代のグローバル教育に取り組む渥美育子氏に聞いた。

視点の転換がカギ

「超グローバル時代」の到来

今は時代の大転換期です。事実、世界は日本人が感じている以上のスピードで変化しています。

2013年以降、2つの大事件をきっかけに世界は新しい次元に突入したと言えます。2つの大事件とは、ドイツで始まった「第四次産業革命」と中国習近平国家主席がリードする「一帯一路広域経済圏設立」をかかげる一大中華文明圏の構築です。私は2013年

以降を「超グローバル時代」と呼んでいます。この時代の特徴が宇宙と地球の連動だからです（このことについてはあとで詳しく述べます）。

今回、冷戦体制が崩壊し、第三次グローバル化が始まった1990年代のはじめにタイミンが悪くバブルがはじけ、先進国中ただ一国、グローバル化に20年も遅れてしまった日本。それを自覚し、周期遅れをとりもどすためには、まず私たち日本人全員が21世紀の超スピードに切りかえ、これまでのように「日本と日本人だけ」

を注視するのをやめ、時代の要請にこたえて「地球から日本を見る視点」に切りかえないといけません。

「グローバル」とは「地球まるごと」という意味ですから、私たち親や教師が、世界では新しい産業革命が始まり、中国の覇権国化で日本が危機におちいつていくという現実を知らないといけません。そのうえではじめて、あと10年、15年後に世界にでていく子どもたちは今どういう能力を身につけ、将来どういうことをやってほしいか、考えることができます。

私たちが世界全体としっかり向

渥美育子

あつみ・いくこ

(一社) グローバル教育研究所理事長

愛知県名古屋市出身。青山学院大学卒。同大助教授、ハーバード大学研究員の後、1983年に米ボストンで米国初の異文化マネジメント研修会社を設立。「タイム」誌に紹介されるなど話題となる。多くのグローバル企業で人財育成や世界市場戦略策定を担当。宗教・民族対立に歯止めをかけるため世界共通教育が必要だと提唱し、「地球村への10のステップ」プログラムを制作し、若い世代のグローバル教育に参画した。2007年に帰国後も、多くの日本企業でグローバル人財教育を担当する一方、子どもたちの教育に尽力している。著書に「世界で戦える人材の条件」。



(図1) 90年代半ばに起きた価値の大転換
 ~グローバル時代の新しいルールや原理・原則が出現

80年代まで 資本主義の時代	21世紀 知識産業の時代
① 政治イデオロギー	① 文化・民族のアイデンティティ
② 権力/地位によるタテのコントロール (タテの物差し)	② 知識・ノウハウ・経験によるヨコの連帯 (ヨコの物差し)
③ ハードパワー	③ ソフトパワー
④ 二元論的発想(二者択一)	④ 正反対の価値の同時導入(マトリックス)
⑤ 国別のルール	⑤ 国際規格、世界標準
⑥ 排他の原理	⑥ 包含の原理
⑦ 監督者と機械の一部のように仕事を繰り返す労働者	⑦ 知識労働者
⑧ 資本と労働の原理	⑧ 市場原理と人道的規範原理
⑨ 国際市場:郷に従え	⑨ 世界市場:競争法でルールを一元化

価値の重心が右へシフトした。この時点で「国際理解教育」を「グローバル教育」に切りかえるべきだった。

©Global-Kyoko & Ikuko Atsumi 2018 All Rights Reserved.

世界目線で歴史の軌道修正ができる人

き合ってグローバル時代を生きなければ、グローバル人財をイメージすることも、ましてや育てることもできません。グローバル人財とは、世界目線で日本や世界を見て、現状を変革する「行動」ができる人だからです。

「グローバル人財」の定義が変化
 私が帰国してから12年の間に、グローバル人財の定義が変わりました。

最初は、90年代半ばに世界で起きた価値の大転換(図1)を経験しそびれた多くの日本人が「インターナショナル」と「グローバル」は同じだと思いきや、今でも混同している人が多くいます。グローバル人財は、単位の冷戦時代に海外において異国とのかわりて能力を

揮した国際人と違って、新たに出現した世界市場で「地球」を単位として活躍できる人財だと強調する必要があります。そのためグローバル人財とは、海外で活躍できる特別な能力の持ち主だと思われるようになったのです。

その後、今はグローバル化時代なのだという時代認識が強まり、心(意識)を世界全体と連動させ、世界的視野で活躍できる人財という幅広い定義を主張し納得してもらえようになりました。つまり、日本人の派閥、孤立(自分だけ、自社だけよければよい)、Closed Mindというネガティブな側面を克服し、オープンで世界レベルでつながり、グローバル発想で仕事ができる人という意味です。

さらに、「超グローバル時代」が始まり、AI支援による困難の克服や再生医療などの夢のシナリオと大量殺戮兵器の精鋭化による人類の滅亡の可能性という「悪夢のシナリオ」がコインの裏表のように同時進行するようになります。グローバル人財とは人類がこれまで

で行ってきたことの負の部分の軌道修正できる人、といった倫理性をおびてきたと言えます。

例えば、グラミン銀行を設立し貧しい女性たちを救うことでソーシャル(社会貢献型)ビジネスというモデルを作ったバングラデシユのムハメド・ユヌス博士、女性にも教育をと訴え撃たれたパキスタンの少女マララ・ユフザイさん(二人ともノーベル平和賞を受賞)、人類が生き延びられるよう火星に移住させる計画でスペースX社を起業して大活躍中のイーロン・マスク氏などがそうです。私が望むのはまさにこういう人財、宇宙から地球を見る視点を持ち、人類の歴史の軌道修正ができるような人です。

いま、かつて高く評価された西欧近代の価値の時代が終わりポストモダンの時代が始まるところで、西欧的価値の限界を日本的価値で補うことができる日本型グローバル人財こそが求められているのです。日本発の究極のグローバル人財ですね。

世界共通の「時間軸」と「空間軸」、 「価値の軸」で世界を見る

対立2軸の使用と

グローバル視点

「グローバル人財」を育てる

教育(1)

グローバル教育とは、グローバル時代を生きぬく知恵や能力を身につける教育です。冷戦体制崩壊までの国際化時代と21世紀のグローバル時代では価値観がほぼ反転したため、もはや英語教育と海外留学だけではなく、グローバル時代が要請する能力(精神構造や価値観)を身につけることが最重要になります。

世界が政治イデオロギーの違いで資本主義圏と共産主義圏に二分されにらみあっていた80年代までとは正反対に、グローバル時代には200近い国が民族のアイデンティティや文化のDNAを重んじる多様性の時代になりました。こ

の多様性のベースになる思考方法が価値の対立する2軸をもったまま全体を視野に入れ、両方の価値のいいところを最大限あわせる方法を考える「全体最適」です。

グローバル教育も日本固有の価値の軸と世界とバランスよくつながらる軸の交わるところに基盤をおいていますので、簡単に右よりになったり左よりになったりぶれることはありません。問題が起きた時の解決方法から第四次産業革命の消費者対応まで、21世紀で最も重要なのはこのマトリックス思考であり、これを使いこなす能力であると私は思います。

つぎに同じくらい重要なのが、「グローバル視点」を持ち視力を見がいていくことです。グローバル視点とは肉眼で見えない世界全体を心の眼と情報分析で見ることができる能力、つまり世界のメキキになることです。私はこの能力を

空間軸だけでなく時間軸にもあてはめ、歴史の検証ができるようにしています。

海外体験に比べ座学を軽視する人が多いですが、肉眼で見えないものを見る能力を身につけるには、座学による集中的な勉強が欠かせません。

世界を正しく捉える 「遠近法」

「グローバル人財」を育てる

教育(2)

TVで政局の中継をみていますと、もつと時間とお金を使うべき重要な問題があるのと思うことはありませんか？あまりに愛国心が強い人にも、地球全体のことも考えてほしいと思いますね。

どこの国に生まれても、次の3つの軸をつかって世界を正しい「遠近法」で捉える能力は大変重要です。これを学校時代に身につけないと世界は混とんとなり意思疎通は成り立たず、破壊と殺し合いになってしまいます。

①世界共通の時間軸(5000年となるのが望ましい)

②世界共通の空間軸

③価値の軸(時代が要求する価値+時代を超える価値+日本固有の価値など)

①と②は世界共通のプラットフォームを心に設定することであり、世界中の人とコミュニケーションを持つ土台があるということ。ここからたとえば日本を診断すると、①日本はグローバル化する、②日本はリーガルコード(法律重視の価値基盤)が手薄、だとわかります。

③については日本は敗戦したため、しっかりした価値の軸をもたないようになつたのではないのでしょうか？しかし一番重要な軸であり、自分や自国のアイデンティティ、主張の核心となるものです。

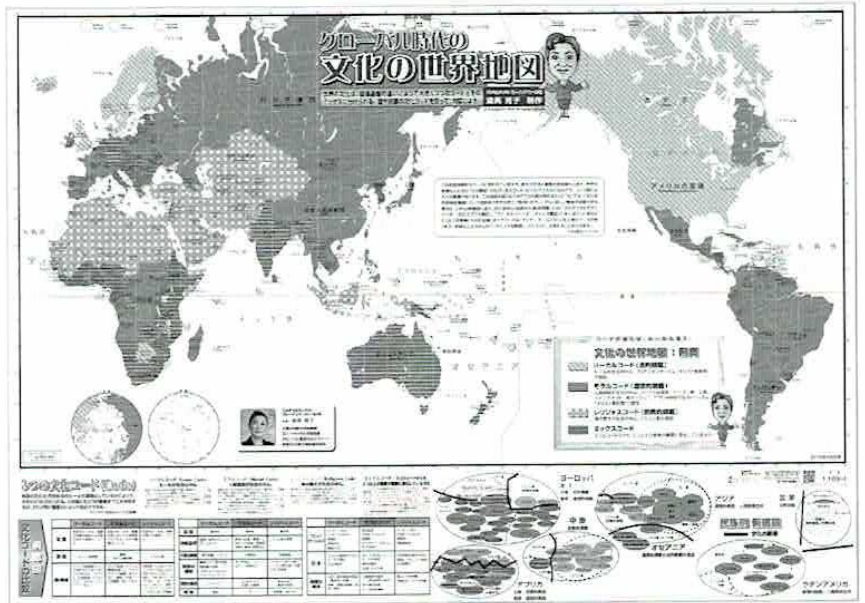
この3軸が非常にはっきりして、目からうろこの説得力をもつ本が最近ベストセラーになったケント・ギルバート氏の『儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇』(講談社α新書、2017)です。

時間軸は孔子の時代BC6～5世紀から現代まで、空間軸はアジアの儒教圏、価値の軸は彼が米国の弁護士であるためリーガルコード。日本人はこの本から一生『論語』を読み人格をみがいてもわからない、裏の真実を教えられます。

平和をもたらす カリキュラム

「グローバル人材」を育てる
教育(3)

私が米国時代に世界のグローバル化が始まる中で作成しましたのが「文化の世界地図」(図2)です。世界地図といえはすべて地理の世界地図でしたから、世界市場戦略を立てたり、大きな事件が起きた時、その地域の人たちの価値観を理解するのに必要だと思いました。この地図は世界共通の空間軸として使うと便利ですが、時間をか



(図2) 文化の世界地図 (渥美育子氏制作)

けて形成されてきた国民国家の伝統的価値観を、その地域に住む人々が何に価値の中心をおいているかによって、次の4つにわけてパターン化したものです(30カ国以上の

国の伝統の中身や現地人の価値観の＋をインテリジェンシ化した本体を作る過程であられた結論だと言えます)。

- リーガルコード文化圏(法律重視)
- モラルコード文化圏(人間関係重視)
- アジアの儒教圏と世界のカトリック圏をあわせたもの
- レリジヤスコード文化圏(戒律重視、イスラム文化圏)
- ミックスコード文化圏(上記3つのうち2つのコードの併存)

この地図を作り、経験と照らしあわせて分かったことは、リーガルコードとモラルコードの人たちは発想も価値観も正反対、モラルコードとレリジヤスコードの人たちはいくつか共通する価値観を持つが、全く異なる価値体系であることです。だから地球上の多様な

人たちと理解し合うには、小さい時からたとえば相手の眼から自分や日本がどう見えるかとか、もし自分がほかの国に生まれていたら世界がどう見えるかなど、マルチカルチュラルレンズを使える人間になる訓練が必要です。

もう1つ非常に重要なことがわかったのです。常識的に言うとう自分が属する文化コードが重視する価値観を多く身につければいいと思うのですが、そうなると破壊や殺し合いが増えてしまう。逆にどこに生まれようと地球上のすべての人が3つの文化コードのいいところをバランスよく併せ持つような教育を受けると、世界は平和になります。All Japanではなく、All World、つまりグローバル教育を義務教育の中に世界共通教育として組み込むのが一番いいのですね。

では日本人の場合、どういうパーセンテージがいいのでしょうか？ 私はモラルコード60%くらいに抑え、リーガルコードは少なくとも30%、残る10%はレリジヤスコードである大きな力への畏敬の念を

グローバル教育を義務教育の中に 世界共通教育として組み込む

グローバル教育は世界に 平和をもたらす

もつのがいいのではないかと思
います。グローバル教育が世界に平
和をもたらす教育だというのはう
れしいですね。

空間軸、時間軸に 囲まれた大きな器

「グローバル人財」を育てる
教育(4)

『遠近法』のところで世界共通の
空間軸と時間軸を心に設定し、世
界共通のプラットフォームを構築
する重要性をお話ししました。実
は『文化の世界地図』の各文化コー
ドの背後にも、それぞれの価値体
系の原点である世界宗教や東洋思
想の出発点まで違う長さの時間軸
が隠れています。

●リーガルコードⅡキリスト教新
教が分離独立した16Cヨーロッパ
における宗教戦争まで

●(儒教系)モラルコードⅡ孔子

の時代BC6〜5Cまで

●(キリスト教旧教系)モラルコー
ドⅡ起源元年まで、さらにさかの
ぼりBC13Cのモーゼの十戒(一
神教の起源)まで

●レリジャスコードⅡイスラム教
創始の7Cまで

このように(文化の世界地図)
もまた世界空間(地球まるごと)
と3300年の時間軸で囲まれた
広大な器を提供しているのです。

なぜ中学3年くらいに時間軸×
空間軸の広大な器を心に設定する
必要があるのでしょうか? 理由
はこれまでの日本の教育では一生
使うことができ、グローバルにも
通用する大きな器の設定の重要性
を考えてこなかったため、学校を
卒業する時には断片的知識の集合
体みたいになってしまふからです。
これでは理路整然と自分の意見を
言ったり、質問に説得力ある形で
こたえることはできません。

もつとはつきり言えば、これく
らいの器ときちんと収納された
知識や情報がないと、大きなス
ケールの世界観を持ちリベラル
アーツも学んだ一神教の人たちや、
100年1000年単位で思考し、
地球全体を土俵にして活躍する中
国人のスピードや構想力に日本人
はとても太刀打ちできない、とい
うことです。

必要なのは倫理

「グローバル人財」を育てる
教育(5)

小学校では今年度から、中学校
では19年度から「道徳」が特別
な教科として格上げ導入されま
す。しかしグローバル人財を育て
るのに待ったなしに必要なのは「倫
理」なのです。では、「道徳」と「倫
理」はどちらがうのでしょうか?

日本ではこの2つは重なって使
われることが多いのですが、日本
でも生命にかかわる場合は「生命
倫理」と表現しています。どうし
ても必要な場合は区別しているの

です。

『文化の世界地図』俯瞰図を見ま
すと、世界には法律を絶対視する
リーガルコード、戒律を絶対視す
るレリジャスコードという2つの
絶対の文化圏があります。絶対
対の文化圏では「倫理」と「道徳」
を分けて考えている人が多いこと
に気がつきました。

●「倫理」=人間として絶対にし
てはならないこと、すべきことを
外から規範するもの。

これには2つの絶対条件があり
ます。①正常なDNAを持つ人類
の存続と②限りある地球資源の維
持と存続です。

●「道徳」=ある社会的状況にお
かれた時、何をどうすべきかとい
う内からの規範。時代と環境によつ
て変わる。

とりわけ現在のように科学技術
が飛躍的に進展している時代の太
転換期においては、自動運転やゲ
ノム編集、新しい技術を使う起業、
AIを使った兵器の開発など、規
制をかけなければなりません。規
制をかけるべきところとなるのは「倫理」

しかありません。このところ日本企業による「うつかり」とはいえないチェックミスや不正の容認、個人情報流出など次々に明るみに出る不祥事件は、心のタガが外れている証拠です。これは倫理教育でくい止めることができます。

今後、世界のルールづくりに活発に参加できるように日本人のグローバル人材を多く養成する必要がありますが、「倫理」を教えることができない人材の育成も待ったなしでしょう。

家庭でできる グローバル教育

「全体最適」「グローバル視点」「遠近法」「平和をもたらす3つの文化コードのいいとこ取り」「大きな器づくり」「倫理」、これら6つに「多様性」を加え7つの能力を理解で

できれば、家庭で自然な形でグローバル教育を行うことができます。

グローバルに発想できる子どもを育てよう。冷戦体制崩壊後世界は多極化し、明日何が起きるか予測不可能な状況におちいったので、逆に子どもには、世界の枠組みになりうる倫理性や世界共通の間軸・空間軸で囲まれた大きな器ができるようにしてあげたい。

こんなことができるというアイデアをいくつか書いてみましょう。

(1) 一番大事なことは、親が世界全体としっかり向き合うこと。恐ろしいことも直視する勇氣を持つことが重要です。

(2) つねに世界地図とともに生きる。大型世界地図をTVのそばに張り、バーチャルな世界の表現(地図)と現実のニュースやドキュメンタリーの動画、旅の映画などと

徐々につながるようにしてあげる。

(3) 子どもに世界の名作など古典や良質の本をたくさん読ませ、舞台を地図の上で空間軸・時間軸にそって「何世紀のどこどこの国の話ね」と特定するのを習慣づける。

(4) 人間として絶対にしてはいけないことが話題になったら、理由をつけて「絶対にしてはいけない」と親の倫理観を強く表明する。

(5) 子どもが突拍子もないことに興味をもち冒険したいといいたしたら、支援者になってあげる。しかし本当に危険がせまったら、理由を明らかにしてはつきりNOという。

(6) 21世紀に重要になる分野、量子力学やAI、脳科学、再生医療、宇宙学、など先端の科学技術にふれる環境を作ってあげるとともに、人間が生きて知恵の結晶を蓄積してきた5000年の時間軸と世界空間で囲まれた大きな器が心でいきあがるようサポートしてあげる。

(7) 強い衝撃を与え世界を変えた10代の子どものたちの生き方が生でわかるような教材を手にいれて、

一緒に体験する。

神の眼のトレーニング

最後に、私がいま中高一貫校で行っているグローバル教育導入による教育改革プログラムをご紹介します。

教諭全員が拙著『世界で戦える人材の条件』(PHP)を読み、共鳴するところにマークをつける。

* 第一日・セミナー型講演『21世紀型人材にどう自分を育てるか?』(半日)

* 第二日・渥美制作グローバル教育プログラム(地球村への10のステップ)(2泊3日)を1日で体験。
* 第三日・教科別および学校全体に導入する具体案を討論する1日のワークショップ。

3日間で宇宙的視点から地球を眺め、世界の軌道修正をおこなう視点を手に入れる「神の眼のトレーニング」です。目

■ 註・記載されている教育方法は「渥美式グローバル教育」として出願中。

世界のルールづくりに参加 でき、「倫理」を教えることが できる人財育成を